MACF礼拝説教要旨
2023年5月21日

【神の国は】

ルカによる福音書17章20〜21 節
20 ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、
イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。
21 『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。
実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」
＊＊＊＊＊

「神の国」という言葉はいろいろな意味で用いられています。
この章の終わりのところでは「世の終わりにもたらされる新しい
秩序や世界」のことが書かれていますが、それも神の国のひとつの
側面だと思います。
しかし、今朝の部分は全く異なっています。
ファリサイ派の人たちの質問は「神の国はいつくるのか」というもの
でしたが、それは「世の終わり」のことや「神が完全にこの世を支配する
時代」を意識したものだったと思います。
でも、イエス様は、それに対して彼らがまったく考えたことのない
新しい答えを語りました。
＊＊＊＊
「神の国は、見える形では来ない。
21 『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。
実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」
＊＊
神の国とは、神が支配している状況のことなのですが
「わたしとあなたの間に神様への歓迎の心があり、神様を
救い主としてうなずく心」があるなら、その「関係」の中に
神の国はあるのです。

その関係の中に神の支配、神の介入、神の助け、神の慰め
神の祝福があるのです。
人はひとりで孤立したかたちで生きることは人間性を失うことになります。
誰かと関係を持ちながら生きることで人間性を確保できます。
そして、その関係の中にこそ「神の国、神の支配」があるとイエス様は
教えました。

つまり、神の国は、あなたが誰かと関わりを持ち、それによって励まされ
慰められるためにこそ機能するような要素を持っています。
人が人として生きることを励ますチカラの源、それが「神の国」です。
神の介入と支配です。

教会という建物の中に神の国があるわけではありません。
教会として集まる、あなたと私がともに祈り、ともに賛美し
ともに御言葉を心に留めるその関係の中に、その共通の礼拝行為の
中に神の国があるのです。
それは、誰かと直接あえなくても、誰か大切な人の事を考え
その人のために祈り、その人のために文章を書き、その人を思い出して
感謝する、その心のなかにも神の国はあるのです。
それは、その人にとって、大事な「関わり」だからです。
一人ぼっちのような状態に思えても、あなたのこころに大事な存在が
思い出されており、その人のために祈り、その人と関わりながら生きるなら
その関係の中に神の国、神の支配、神の守り、介入があります。
＊＊＊
MACF礼拝映像はこちらです。
https://youtu.be/WKim0cD-CSc